

イネヒメハモグリバエの食害に注意 ～発生状況を把握して、被害初期に防除してください～

1. 病虫害名：イネヒメハモグリバエ（イネミギワバエ）

2. 発生作物：水稲

3. 発生地域：全県

4. 発生時期：－

5. 発生量：多い

6. 注意報発表の根拠（現在までの発生状況と今後の発生予想）

- (1) 5月19日に実施した県中央部の巡回調査（畦畔際100株調査）における平均株当たり卵数は0.64個で、2014年（0.74個）や2013年（2.02個）より少ないが、2008～2010年の平均値（0.02個）と比較して多かった（表－1）。平均産卵株率は22.0%で、2014年（26.5%）や2013年（49.6%）より低いが、2008～2010年の平均値（1.5%）と比較して高かった（表－2）。
- (2) 本年の発生量はほ場間差が大きく、要防除水準（株当たり卵数が1.5個又は産卵株率が50%）を超えるほ場が認められた（表－1、2）。
- (3) 県中央部の調査結果から、産卵数のほ場間差が大きいものの全県的に発生量が多いと予想される。低温や曇雨天の気象条件になると卵からのふ化や幼虫の生存に好適となるため、産卵が多いほ場では急激に幼虫による食害が発生するおそれがある。

7. 防除対策

産卵数のほ場間差が大きいため、ほ場をよく観察して発生状況の把握に努める。卵は白色で長さ0.7mmの長楕円形、深植えや深水等により水面に浮いた葉身の葉脈に沿って産み付けられる（図－1）。幼虫は乳白色のウジで、ふ化後ただちに葉肉内に潜入り食害するため、発生が多い場合は葉が枯死する（図－2）。

産卵数が多いほ場では、以下の防除対策を行う。

- (1) 平均気温が15℃の場合、卵は7日前後でふ化するので、幼虫による食害が見え始めたらトレボン粉剤DLを10a当たり3kg散布するかトレボン粒剤を10a当たり2～3kg水面施用する。または、スミチオン乳剤2,500倍かエルサン乳剤2,000倍を10a当たり100リットル散布する。
- (2) 移植3日前～移植当日にブイゲットグランドオンコル粒剤、ブイゲットフェルテラ粒剤、Dr.オリゼフェルテラ粒剤、ルーチンアドスピノ箱粒剤、BASFプリンス粒剤のいずれか又は移植当日にフェルテラ箱粒剤を育苗箱施用した場合は、本種に有効であるため、あらためて(1)の追加防除をする必要はない。

8. 資料

表一1 イネヒメハモグリバエの株当たり卵数の年次比較(5月19日調査)

地点名	卵数/株			
	2015年	2014年	2013年	2008～2010年 平均
五城目町上樋口	0.67	1.19	0.92	0.02
大瀧村方上	0.83	1.35	1.59	0.01
井川町小竹花	0.01	0.47	0.41	0
秋田市金足	3.11	1.52	2.41	0.01
秋田市上新城	1.49	1.47	0.85	0.01
秋田市下浜	0.21	-	4.67	0.02
由利本荘市岩城内道川	0.17	0.18	-	-
由利本荘市及位	0.61	0.16	2.83	0.08
由利本荘市鮎瀬	0	0	-	-
由利本荘市新上条	0.06	0.14	1.39	0.03
由利本荘市矢島町元町	0.66	0	3.14	0
にかほ市平沢	0.06	0.08	-	-
にかほ市象瀧町本郷	0.39	2.34	-	-
平均	0.64	0.74	2.02	0.02

注：-は未調査、要防除水準は株当たり1.5個

表一2 イネヒメハモグリバエの産卵株率の年次比較(5月19日調査)

地点名	産卵株率(%)			
	2015年	2014年	2013年	2008～2010年 平均
五城目町上樋口	29	52	31	1.0
大瀧村方上	28	44	41	0.3
井川町小竹花	1	34	15	0
秋田市金足	70	60	60	0.5
秋田市上新城	57	40	28	0.7
秋田市下浜	15	-	61	0.7
由利本荘市岩城内道川	9	5	-	-
由利本荘市及位	24	5	83	4.0
由利本荘市鮎瀬	0	0	-	-
由利本荘市新上条	1	12	53	4.0
由利本荘市矢島町元町	26	0	74	0
にかほ市平沢	5	7	-	-
にかほ市象瀧町本郷	21	59	-	-
平均	22.0	26.5	49.6	1.5

注：-は未調査、要防除水準は産卵株率50%



図一1 イネヒメハモグリバエの卵



図一2 イネヒメハモグリバエ幼虫による食害

【 問合せ先 】

秋田県病害虫防除所 TEL 018-881-3660
 秋田県農業試験場 TEL 018-881-3326
 掲載HP <http://www.pref.akita.lg.jp/bojo/>